

エコアクション21

環境経営レポート

活動期間：2023年5月～2024年4月

株式会社 吉田鑄造研究所

作成 2024年8月1日 改訂9月5日

目次

	P
1 組織の概要	1
2 対象範囲	1
3 実施体制	2
4 環境経営方針	3
5 環境経営目標（短中期目標/2022年度から2024年度）	4
6 環境経営計画	5
7 環境経営目標に対する実績と評価	6
8 環境経営計画と取組内容の結果と評価、並びに今後の取組	7
9 環境関連法規の順守状況確認、並びに違反、訴訟の有無	8,9
10 代表者による全体の評価と見直し・指示	10
【参考データ】 事業の規模	11

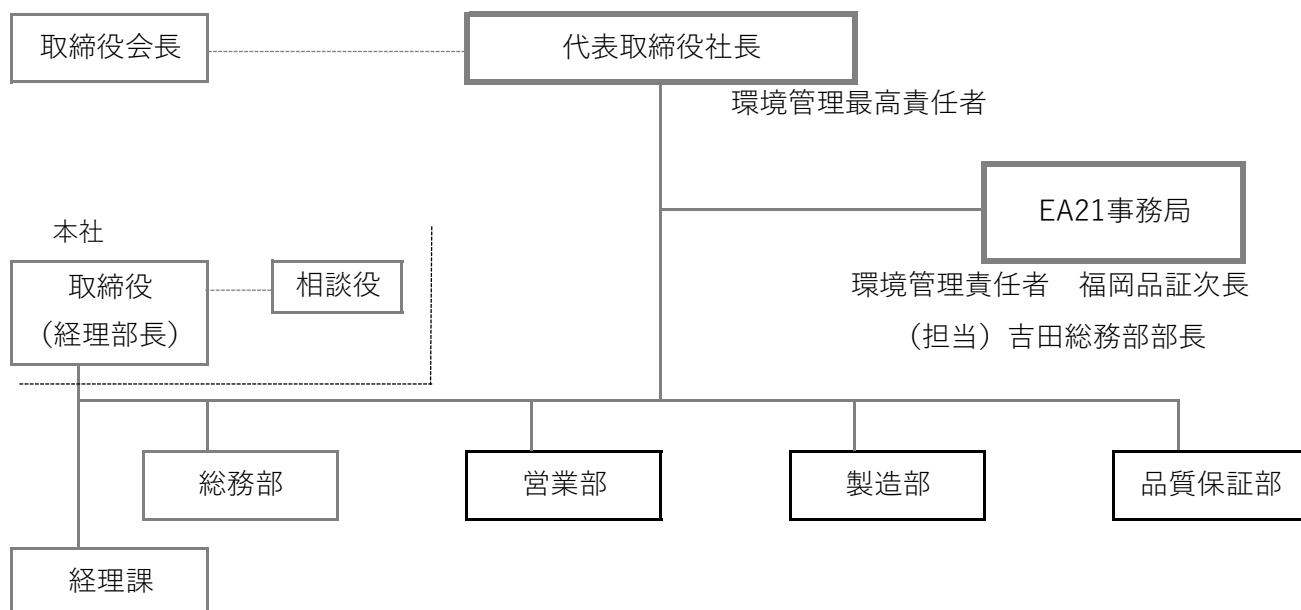
1 会社概要

事業者名	株式会社 吉田鑄造研究所	
代表者名	代表取締役社長 吉田 澄生	
所在地	第1工場 愛知県みよし市三好町新月82-2	
	第2工場 愛知県みよし市三好町福田12-1	
	第3工場 愛知県みよし市三好町福田15-1	
事業の内容	輸送機器用、金型製造および関連する治工具製造	
設 立	1980年10月	
資本金	1,000万円	
従業員数	45名	
売上高	116,700円（2023年5月～2024年4月）	
事業年度	5月～4月	
主要取引先	共立工業株式会社、株式会社ファインシンター、株式会社アイシン、株式会社豊田自動織機、トヨタ車体株式会社	
主要な設備 ・車両など	機 名	台 数
	NC旋盤	4
	マシニングセンター	18
	研削盤	7
	放電加工機	7
	ワイヤ放電加工機	9
	CAD,CAM	14
	細穴放電加工機	2
	電気炉	2
	圧入プレス機	2
	LAP	3
	高精度CNC工具研削盤	1
環境管理責任者	福岡 大 （品質保証部）	

2 認証登録の対象範囲

全組織、全活動を対象とする。

3 実施体制



担当	役割・責任・権限
代表取締役	・ 全体統括（経営資源の用意） ・ 環境経営方針の作成 ・ 環境管理責任者の任命 ・ 環境目標、計画の承認 ・ 全体の評価と見直し、指示
環境管理責任者 EA21事務局	・ 環境経営目標、計画の策定 ・ 環境経営目標、計画の実績・進捗状況の確認と評価 ・ 環境関連法規の取りまとめと遵守状況の確認 ・ 外部とのコミュニケーション窓口 ・ 環境活動の実施に必要な文書類の作成 ・ 環境教育、緊急事態訓練などの計画の策定と実施 ・ 環境経営レポートの作成
各部門責任者	・ 各部門における計画の遂行管理 ・ 実施状況の確認、記録管理
全従業員	・ 部門計画の実施 ・ 自己の役割の認識

4 環境経営方針

基本方針

当社が事業活動を行うに当たり、環境に関する法則等、公害防止協定等の順守はもとより、自主基準を制定して汚染の予防活動を展開します。

また、開発、生産、販売等各分野の活動における環境への負荷を更に低減するため、目的、目標を設定し、計画的な実践と見直しにより、環境マネジメントシステムとパフォーマンスの継続的な改善に努めます。

行動指針

- 1 生態系の保護のため、化学物質の適正管理と、環境に配慮した、技術・製品の開発を推進します。
- 2 「限りある資源を大切に」の精神を根底に、資源の節約と再利用の拡大を図ります。
- 3 生産活動で、環境負荷となる排出物の最小化と、環境管理の徹底を図ります。
- 4 二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減、水使用量の削減に努めます。
- 5 広報・啓蒙活動と、企業市民活動を積極的に推進します。

本方針について、全従業員への周知徹底を図るとともに、社外にも積極的に開示します。

制定 2017年5月1日

改定 2024年8月26日

株式会社 吉田鑄造研究所

環境管理最高責任者

代表取締役社長 吉田 澄生

5 環境経営目標（短中期目標/2022年度から2024年度）

2018年度（39期）基準に、2022年度（43期）から2024年度（45期）までの目標値は以下の通り。

各年度は5月～4月とする。

取組項目	単位	基準・39期 2018年度	43期 '2022年度	44期 '2023年度	45期 '2024年度
	%	－	－4%	－5%	－6%
温室効果ガス（二酸化炭素）排出量の削減					
CO ₂ 総排出量	kg-CO ₂	849,146	815,180	806,689	798,197
エネルギー使用量の削減					
電気使用量	kWh	1,841,825	1768152	1,749,734	1,731,316
ガソリン使用量	ℓ	6,836	6,563	6,494	6,426
産業廃棄物削減					
廃液（アルカリ）	ℓ	4,400	4,224	4,180	4,136
廃プラスチック	kg	9,750	9,360	9,263	9,165
水使用量の削減					
水使用量	m ³	649	623	617	610
製品サービスに関する目標					
不良率の改善	%	0.78%	0.3%以下		

* 電力の排出係数は0.459kg-CO₂/kWh（中部電力2022年度調整後排出係数）を使用した。

* LPGは使用量が少ない為、目標値管理は行わない。

* PRTR対象の化学物質は使用していない。その他切削油等は適正管理・保管する。

6 環境経営計画

項目	環境経営計画	担当	取組内容	スケジュール
二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量の削減	全部門	二酸化炭素排出量の削減	・ 6月、10月に環境経営計画を通達、確認。
	電力使用量の削減	全部門	昼休みの消灯	・ 不要照明の消灯は通年実施。 ・ 空調機器の運転はは夏季（7月8月9月）及び冬季（12月1月2月）の実績値を確認しながら毎月適切に管理する。 ・ 非稼働時のスイッチオフは通年実施。 ・ エアコンプレッサーの運転は空気圧力を通年確認し適正運転を実施。など
			不在時の消灯	
			空調設定温度管理・老朽空調機の設備更新	
			フィルター清掃	
			非稼働設備の電源オフ	
			コンプレッサー適正運転、エア漏れ調査	
			照明設備のLED化推進	
	燃料・ガソリン使用量の削減	全部門	アイドリングストップの実施	・ 「エコドライブ10の勧め」を月初に唱和。など
			車両整備の実施	
			ルートの見直し	
			車両ハイブリット化の推進	
廃棄物排出量	廃棄物排出量の削減に向けた取組	全部門	廃棄物の分別 定期的な排出量の把握	・ もったいない運動の通年実施。 ・ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動の通年実施。など
総排水量	節水に向けての取り組み	全部門	水洗い等における社員の節水啓発 水使用量の把握	・ 節水取組の水平展開と、活動の通年実施。など
化学物質	化学物質削減に向けての取り組み（適正管理・保管）	全部門	新たな資材導入の際のSDS確認 使用数量の把握 保管場所の管理	・ 物質の内容確認と使用量の確認など
製品サービス	製品・サービスのプロセスに関する取り組み	全部門	不良率の改善 客先への流出不良の撲滅	・ 過去事例の調査、原因分析、対策検討 ・ 作業員への教育

7 環境経営目標に対する実績とその評価

2018年度（39期）基準に、2022年度（43期）から2024年度（45期）までの目標値は以下の通り。
各年度は5月～4月とする。

取組項目	単位	基準・39期 2018年度	44期 '2023年度目標	実績	評価
	%	—	－5%	—	—
温室効果ガス（二酸化炭素）排出量の削減					
CO ₂ 総排出量	kg-CO ₂	849,146	806,689	825,981	△
エネルギー使用量の削減					
電気使用量	kWh	1,841,825	1,749,734	1,774,326	△
ガソリン使用量	ℓ	6,836	6,494	4,953	○
産業廃棄物削減					
廃液（アルカリ）	ℓ	4,400	4,180	8,650	×*1
廃プラスチック	kg	9,750	9,263	13,350	×*2
水使用量の削減					
水使用量	m ³	649	617	740	×*3
製品サービスに関する目標					
不良率の改善	%	0.78%	0.3%以下	0.23%	○

○：目標達成 △：目標は未達だが基準値よりは削減 ×：目標未達

* 電力の排出係数は0.459kg-CO₂/kWh（中部電力2022年度調整後排出係数）を使用した。

* LPGは使用量が少ない為、目標管理は行わない。

* PRTR対象の化学物質は使用していない。その他切削油等は適正管理・保管する。

*1：加工機台数1台増加

*2：軟質、硬質分離して目標設定が必要、軟質プラの削減方法を検討中

*3：漏水あり第1工場、第2工場とも修理済み。

8 環境経営計画 の取組結果の評価、今後の取り組み

項目	環境経営計画	担当	取組内容	評価	評価結果の原因と今後の取り組み
二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量の削減	全部門	二酸化炭素排出量の削減	△	加工機台数1台増加
	電力使用量の削減	全部門	昼休みの消灯	○	電気使用量は生産量の増減の影響などもあるが、引き続きムダ、ムラを無くす省エネ省資源活動を継続する。
			不在時の消灯	○	
			空調設定温度管理・老朽空調機の設備更新	○	
			フィルター清掃	○	
			非稼働設備の電源オフ	○	
			コンプレッサー適正運転、エア漏れ調査	○	
			照明設備のLED化推進	○	
	燃料・ガソリン使用量の削減	全部門	アイドリングストップの実施	○	引き続きエコドライブの実践を継続する。
			車両整備の実施	○	
			ルートの見直し	○	
			車両ハイブリット化の推進	○	
廃棄物排出量	廃棄物排出量の削減に向けた取組	全部門	廃棄物の分別	△	廃棄物の分別と、省資源活動を徹底する。
			定期的な排出量の把握	○	
総排水量	節水に向けての取り組み	全部門	水洗い等における社員の節水啓発	○	節水活動は継続。 漏水に注意する。
			水使用量の把握	○	
化学物質	化学物質削減に向けての取り組み（適正管理・保管）	全部門	新たな資材導入の際のSDS確認	○	継続する
			使用数量の把握	○	
			保管場所の管理	○	
製品サービス	製品・サービスのプロセスに関する取り組み	全部門	不良率の改善	○	継続する
			客先への流出不良の撲滅	○	

9 環境関連法規の順守状況確認、並びに違反、訴訟の有無 1/2

作成 2023年7月26日

遵守評価日2024年4月26日

環境関連法令項目	内容	管理	提出	順守項目	順守状況	評価
廃棄物処理法	・ 廃棄物処理委託： 廃棄物収取運搬・処理業者の許可の確認、 契約の締結。 ・ 保管基準：60cm□以上の看板表示 飛散、浸透防止、衛生管理 ・ マニフェスト交付 B2,D,E票の保管（5年間）B2,D票90日 E票180日以内に返却されない場合は 30日以内に知事に報告 ・ 産業廃棄物管理票交付状況報告書の提出	25枚	5/31	・ 産廃業者許可書の確認 （有効期限等） ・ 保管基準の順守確認 ・ マニフェスト返却の 照合確認 ・ 帳簿の確認	・ 業者 9 社 許可期限切れ無し 優良 7 社 ・ 照合確認 結果問題なし ・ 報告書提出	○ ○ ○
愛知県廃棄物の適正な処理の促進に関する法律	・ 処理業者の能力確認			・ 処理施設の状況確認	優良事業者 7 社	○
騒音規制法 県民の生活環境の安全等に関する条例	・ 特定施設の届け出 対象設備：コンプレッサー（3.75kW以上） ・ 騒音基準の順守 ①第1工場：市街化調整区域 昼間60dB、朝夕55dB、夜間50dB ②第2、第3工場：工業地域 昼間70dB、朝夕65dB、夜間60dB			・ 特定施設の台数確認 （2倍以上は変更届要） ・ 騒音測定値の確認 ・ 生活環境に影響を及ぼしていないか確認	・ 特定施設 変更なし ・ 境界騒音値 変更なし	○ ○
振動規制法 県民の生活環境の安全等に関する条例	・ 特定施設の届け出 対象設備：コンプレッサー（3.75kW以上） ・ 騒音基準の順守 ①第1工場：市街化調整区域 ②第2、第3工場：工業地域			・ 特定施設の台数確認 （2倍以上は変更届要）	・ 特定施設 変更なし	○
フロン排出抑制法	・ 空調機からのフロンガス漏洩防止 ①法定点検（1/3年） 7.5kW以上 ②簡易点検(1/3ヶ月) 全ての機器が対象 ③冷媒廃棄時の証明書保管 *法定点検：初回2019年、次回2025年			・ 法定点検の実施 ・ 簡易点検の実施 ・ 機器廃棄時は指定業者に依頼しフロンを回収	簡易点検はフィルター 清掃時に実施	

9 環境関連法規の順守状況確認、並びに違反、訴訟の有無 2/2

作成 2023年7月26日

遵守評価日2024年4月26日

環境関連法令項目	内容	管理	提出	順守項目	順守状況	評価
消防法	・ 危険物一般取扱所（第1工場） 取り扱い油脂：放電加工機等加工油 貯蔵量（第四類第3石油類）2,680 ℓ 貯蔵量（第四類第4石油類）203 ℓ 貯蔵量（第四類指定可燃物）850 ℓ 法に定める保安監督者 ・ 少量危険物貯蔵所（第2工場） 貯蔵量（第四類第4石油類）592 ℓ ・ 少量危険物貯蔵所（第3工場） 貯蔵量（第四類第4石油類）800 ℓ 法に定める維持管理			・ 取扱油量変更届 倍数：1.648⇒1.374 ・ 保安監督者（吉田寿雄） ・ 維持管理記録確認	2024.1.9 完工検査済 変更なし 変更なし ・ 点検年2回	○
家電リサイクル法	・ 特定家電機器廃棄時の適正処理 ①小売業者に渡す ②リサイクル料金を負担する 特定家電：テレビ、洗濯機、冷蔵庫、 ユニットエアコン			・ 廃棄序文時の適正処理 ・ リサイクル券確認	・ 該当案件無し	
水質汚濁防止法	・ 事故時の処置：貯油事業場からの含油排水が 公共用水路に排出又は地下浸透時の対応 ①応急処置の実施 ②知事への届け出（所管行政庁）			・ 事故記録の確認	・ 該当案件無し	
じん肺 健康診断	・ 磨き担当者 管理1 （3年ごと）			・ 2023.7. 5実施 次回2026年	・ 岩田、坂口	○

当社に適用される上記の環境関連法規に関して、違反はありませんでした。

また、関係機関、地域からの苦情や訴訟等も過去3年禍においてありません。

10 代表者による全体評価と見直し・指示

【環境管理責任者による今年度の振り返り】

2023年度のCO2総排出量は基準年の2018年に比べ約3%削減できましたが、目標とした5%削減に対しては未達成でした。エネルギー使用量と相関のあるCO2総排出量は生産量の増減の影響を受けますが、削減に向けては、設備の非稼働時や不要照明のスイッチオフなどのムダの排除が重要であり、徹底したいと思います。廃棄物排出量は増加しました。削減に向け再徹底します。廃棄物の削減は3R（リユース、リデュース、リサイクル）や、もったいないの意識を高く持ち、小さなことでもコツコツ積み上げていきたいと思っています。

【代表者コメント】

代表取締役社長 吉田 澄生 2024年7月20日

全社的にQC活動を手段として、不良削減＝エネルギー削減に取り組んでいる。徐々に成果が出てくると期待している。新たな手法（改善提案）により一層の削減活動の見える化を行い、削減を推進してもらいたい。

外部の指導（QCサークル、個別指導）の活用等で不良削減の取り組みは実施中。削減方針は継続して推進する。当初目標の0.3%以下は継続達成中である。次のステップとして、流出不良ゼロを継続達成するための手段を構築してもらいたい。

【各項目の評価と指示】

環境経営方針	変更の必要性	有り	無し
環境経営目標・計画	変更の必要性	有り	無し
実施体制	変更の必要性	有り	無し

【参考データ】

1. 事業の規模

○ エネルギー使用量等の環境負荷の総量のデータを原単位で把握するために用います。

		対 象 期 間						
活動期間：	指標	単位	(2018年5月～2019年4月)	(2019年5月～2020年4月)	(2020年5月～2021年4月)	(2021年5月～2022年4月)	(2022年5月～2023年4月)	(2023年5月～2024年4月)
	売上高	万円	111,918	90,911	75,970	90,024	91,751	116,700
	生産量	t	－	69.76	62.50	61.25	67.89	79.67
	(電力使用量)	kwh	1,841,825	1,869,905	1,767,818	1,743,947	1,667,098	1,774,326
	(ガソリン)	ℓ	6,840	6,595	5,966	5,363	4,619	4,953
	(I3全体CO2)	kg-CO2	848,444	860,583	812,970	800,654	764,314	825,933
原単位	CO2/生産量	t-CO2/t	－	12.3	13.0	13.1	11.3	10.4
	CO2/売上	kg-CO2/万円	7.58	9.47	10.70	8.89	8.33	7.08
	(一般廃棄物)	m3	15.88	5.18	6.24	7.85	7.70	7.55
	(廃液)	リットル	3300(油泥)	6790(油泥)	2000(油泥)	990(油泥)	0 (油泥)	0 (油泥)
	(廃液) 廃アルカリ	リットル	－	4900+6790(油泥)	7300+2000(油泥)	4154+990(油泥)	4,950	8,650
	(廃プラスチック)	m3	3.7	5.40	9.75	6.41	12.40	13.35
	(水道量)	m3	649	654	768	627	574	740